

2013年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2013年7月21日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

埼玉地区総会報告

秩父教会 都築 英夫

二〇一三年度の埼玉地区総会は三月二十日(祝・水)に上尾合同教会を会場として、開催されました。

開会礼拝の説教者は三月で小川教会から転任される長尾邦弘教師でした。マタイ福音書十四章十三節〜二十一節からの御言葉の取り次ぎでした。

地区総会の議長は土橋誠教師(飯能・地区委員長)が担当され、組織会で正議員百三十四名のうち九十五名の出席を確認。総会の成立が宣言されました。関東教区からの問安使として、飯塚拓也教師(教区副議長)と小林祥人教師(教区宣教部委員)のご挨拶を受けました。

仮執行順序の承認に際して地区委員長選挙および地区委員の半数改選選挙を他の議案審議と平行して行うことが可決されました。以下、当日の決議事項を箇条書きで記します。



(1) 二〇一二年度諸報告、二〇一二年度会計決算及び会計監査報告、それぞれ承認。
(2) 地区委員長選挙
土橋誠(飯

能・再)
地区委員選挙(半数改選)

教師 布村伸一(熊谷・再)、野村忠規(東松山・新)、山岡創(坂戸いずみ・新)
信徒 後藤龍男(和戸・新)、豊川昭夫(越谷・再)

任期継続者 教師・金田佐久子(西川口)、都築英夫(秩父)、山田称子(浦和別所) 信徒・小岩晃(上尾合同) 結城恭子(大宮)

なお、教師・中村真(埼玉新生)、山下下恭二(東大宮)、信徒・三井田忠昭(岩槻)は二期四年を満了しました。

(3) 二〇一三年度宣教活動計画および予算について
主題「主にある交わりを深めよう」
聖句「愛する者たち、互いに愛し合いましよ。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです」(ヨハネの手紙一 四章七節)

「前年度の地区主題、聖句を今年度も継続いたします。地区規則第二条に『この地区は日本基督教団の教憲、教規および同教団の規則、関東教区の規則の定めるところに従って、地区内諸教会の一致と連帯の強化に努め、福音の前進に仕えること』の目的

を達成する」とあります。このことのために、地区内の五十九教会・伝道所とそこに連なる人々が地区委員会・各委員会・各部などの行うプログラムを通して交わりを深め、宣教の使命に共に生きてまいりましょう。



二〇一三年度は「地区教会全体修養会」、また地区全体での「新年合同礼拝」が開催されました。埼玉地区の教会・伝道所が集い礼拝と交わりを共に

にいたしました。多くの方の参加を願います。また、各委員会・各部の活動を担うために地区内の教会・伝道所の皆さまの積極的な参加を期待します。(地区委員長報告より)

予算については地区委員会報告から提出された予算案を一部変更して、可決されました。

その他の議案(会計監査委員選出、総会議事録確認、次回地区総会会場及び日程)は地区委員会に一任されました。(地区・書記)



「衣食足りて礼節を知る」と言うが、凡人は家事を一人で全部やって、やっとその大変さを知る。

最初の頃はレシピを見ながら、電卓と計量器で料理を汗だくで作った。なんとか味、色、艶とも自己満足出来るものにはなったが、この話を息子、娘にしたら「お父さんは専攻が化学だから、醤油をメスシリンダーで計っているような調理姿が目につかぶわ」と笑われた。

今は何とか、匂いと色だけで味付けできるようになったが、洗う物は大変だ。「洗うとは汚れを除去することではなく、移すことなり」と悟った。洗剤とは、汚れを消すのでなく、別のものに移すだけ。つまり食器や調理道具を洗えば、洗い桶に移り、水切りネットに移り、シンクの排水口に移るのである。ここまですべて掃除してやっと洗った物が終わる。今頃亡妻に感謝している。では洗剤の力とは何か。本来なら落ちない汚れを水で落ちるようになる働き(洗剤)。しかし落ちた汚れは消滅するわけではない(原罪)。洗剤も聖書的だなぁ。(三井田)

地区委員長挨拶

埼玉地区委員長

土橋 士郎

誠



三月の地区総会で再び地区委員長に選任されました。

個人的には、平日は保育園の副園長として木曜日を除く毎日仕事をしておりますので、再任は望んでおりませんでした。しかし、選挙結果は主の御心と受け止め、あらためて二年間、地区委員長として出来るだけのこととしてはしていきたいと思っております。主の導きと皆様のご協力によらなければ務まりませんので、よろしくお願いたします。祈りのうちにお覚え下されば幸いです。

今年度は地区教会全体修養会が開催される年度ですので、修養会委員会が昨年度から着々と準備しております。地区内の教会・伝道所からぜひ多数のご参加をお願いいたします。修養会ですから学びもありますが、それ以上に、三日間を共に過ごしますので、交わりを深める良い機会です。

地区活動をを行うにしても、各教会・伝道所間の伝道協

力・宣教協力をするにしても、交わりを深め、自由に語り合うことのできる関係を作っていくことが、地区としての大きな課題の一つであると思っております。そのためにも、全体修養会にご参加ください、関わりを深めることをしていただきたいと思います。また各委員会等の活動にも積極的にご参加いただければと思います。

二〇一三年度の埼玉地区の歩みの上に主の祝福がありますようにとお祈りください。また、互いが互いのために祈りあつていきましょう。

(飯能教会)

新地区委員長紹介

地区委員に選ばれて

和戸教会 後藤 龍男



この度の地区総会で地区委員に選ばれ、従来から関

わつて来た社会委員会を担当することになりました。二〇一三年度の主題「主にある交わりを深めよう」の下、地区の諸活

動が主の宣教の業に喜んでご奉仕することが出来るために地区委員会がお手伝い出来ることを願つて、その働きに参加させていきたいと思います。社会委員会の他に地区委員会の日程が加わりますが、健康に留意し元気でご奉仕していきたいと思つています。

生きている地区

越谷教会 豊川 昭夫



地区総会に初めて出席したのは今から丁度二十年前

の一九九三年です。この時、地区の事は全く分からず、全てがチンプンカンプンでした。当然、知っている牧師も信徒もいませんでした。

二十年前と今年の総会議案報告書を見比べると、この二十年間で約七割の教師が入れ替わっていました。信徒議員は、九割以上が替わっています。地区委員長も地区委員も全員替わっています。一方、議案報告書は二倍のページ数になっています。委員会も教会数も増えました。こうして見ると、地区は生きている！動いている！と実感します。

仕える者として

熊谷教会 布村 伸一



先の地区総会に於いて再選され二期目を勤めること

となりました。この二年間地区委員としての奉仕に関わらせていただき、様々な方との出会いと、地区活動の良さを経験することができました。地区活動の良さは、それぞれの教会では実施できないことについて地区の教会が集まれば実施できること、地区の進んだ教会の取り組みを広げることができると、様々な情報交換ができることであると思つています。そのことを通してそれぞれの教会が伝道に励み、豊かな交わりが主の下になされていくことが地区活動の理想型であると考えます。この二年間も、そのために、託された事柄を主に前に忠実に果たしてまいりたいと願つております。「神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。」(エフェソ三章七節)とのみ言葉のとおり、働く者として歩んでまいりたいと思つています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

信頼し合う繋がり

東松山教会 野村 忠規



東松山教会の野村です。今回、最後は籤引きで地区委員

に選ばれました。これを神からの命令と受け止め、与えられた務めを果たして参りたいと思つております。私は伝道の働きは「協同作業」でなされるものであると理解しています。そこで、地区の諸教会が互いに「信頼し合う繋がり」を持ちつつ伝道の働きをなす事が一番大切だと思つています。もしこの信頼の繋がりが無ければ、その繋がりは重荷となり、それぞれの賜物や力は分散され、慰めや励ましを交わす事なく、それぞれがそれぞれの場で歯をくいしばつて戦いを続ける事となり、全体としては伝道の働きが衰退して行く事となります。このような事を考えますと、地区委員の働きは大切です。「信頼し合う繋がり」を育てるために祈り合いつつ議論し、一歩前進の為の決断をして行かなければなりません。この委員会のために祈り下さい。

地区委員に再選して

坂戸いずみ教会 山岡 創



私は、一九九二年に東京神学大学を卒業後、始まったばかりの坂戸いずみ教会(当時、坂戸伝道所)に赴任して二年目になります。

地区委員は九十六年を最初に、休みを挟んで四期八年務めさせていただきました。そのうち六年間、書記を担いました。その後、子ども五人の養育や会堂建築等もあり、しばらくご容赦いただきましたが、数年振りに再選されました。

今回は地区委員会内の互選で副委員長を担うことになりました。土橋誠委員長を補佐して、地区の諸活動を担ってくださる方々がやり易いように、また諸教会・伝道所、牧師、信徒の交わりが、明るく、楽しくなされるように努めたいと願っています。

子どもの頃から数えると、私は四十八年間ずっと埼玉地区にいます。地区に育てられました。その恵みに感謝して、少しでも地区に仕えようと思えます。

新任教師紹介

自己紹介

鴻巣教会 川染 三郎



一九四二年一月五日、満州にて生まれる。一九五八年二月二日、高松教会にて野町良夫牧師から受洗。一九六八年三月東京神学大学卒業。同年四月京葉中部伝道所担任教師、一九六九年四月高砂教会主任担任教師、一九七三年四月八丈島伝道所、一九七七年富士見町教会担任教師、一九八〇年四月同教会主任担任教師、一九九九年四月高松教会主任担任教師にそれぞれ就任しました。二〇一二年三月同教会辞任と共に、隠退。

二〇一三年四月鴻巣教会主任担任教師として復帰する。付属英和幼稚園園長に就任。これら以外に、代務教師として三宅島伝道所(二年間)香川教会、丸亀教会(二回)、屋島教会を各一年担当しました。主のお恵みに、そして多くの同労者、信徒の祈りに支えられましたことを感謝しています。

就任挨拶

本庄旭教会牧師 木俣 修



この度、本庄旭教会から招聘を受け五月一日に赴任いたしました木俣修と申します。二〇〇一年四月から十年間中部教区富山地区福野伝道所で牧会に携わってきました。

二年前に諸事情があつて前橋に戻ってきました。この二年間無牧の足利東教会、本庄旭教会に於いて説教奉仕の道を与えられました。

今回招聘を受けた本庄旭教会の前牧師齋藤康彦牧師とは母教会(山形本町教会)も同じく、何か御役に立てばと願ひ祈っております。

就任最初の役員会において、年間聖句を決定させていただきました。「見よ、新しいことをわたしはおこなう。今や、それは芽生えている」(イザヤ四三章十九節)。齋藤康彦牧師を天に送り四年間の無牧の時を過ごし、今、神様は新しい歩みの道を備えて下さったのです。よろしく願ひします。

あらためまして

白岡伝道所 佐々木 佐余子



「私はこの度、白岡伝道所に赴任いたしました。」と申

しましても一区から同じ一区に移ったので改めて自己紹介するまでもないとは思いますが。

白岡伝道所は、埼玉県南埼玉郡白岡町から最近白岡市になったばかりのニュータウンにあります。人口はおよそ五万人です。辺りには梨畑が広がり、のどかなところです。白岡伝道所には三つの付属幼稚園があり、私はその二つで幼稚園付牧師(チャプレン)として日中は働いています。イエス様の福音をわかりやすくどうやって園児に伝えるか頭を悩ましています。

伝道所の開設は二十七年前になりますが、福島聖二牧師、福島英子牧師と共働き、この地にイエス様の福音の種まきを続けたいと思っています。主にある諸先生方、兄弟姉妹方のお祈りとご支援を切に切に願ひいたします。

よろしく願ひします

毛呂教会 澁谷 弘祐



埼玉地区の皆様、はじめまして。この度毛呂教会の主

任担任教師として赴任した澁谷弘祐と申します。どうぞよろしく願ひいたします。私は二〇〇五年兵庫教区阪神地区の塚口教会の担任教師として働きを始めました。しかし鬱のため二年休職の後、九州教区大分地区の白杵教会に転任しました。この毛呂教会が三つめの任地であり、教師としては七年目に入るところです。埼玉地区に

関しては妻の実季先生から聞き大変好印象をもっておりまして、ぜひ色々な交わりを共にさせて頂きたいと願っております。

私は大学時代にグリークラブという男声合唱団に所属していて、讚美歌を歌うことには喜びを感じています。大分地区では牧師バンドの一員として無理やり歌わされていますが、何かの折にカルテットでも結成できたらなと思っております。よろしく願ひします。

強く、雄々しくあれ

毛呂教会 澁谷 実季



四月より毛呂教会担任教師に赴任しました澁谷実季

と申します。一年ぶりに埼玉地区に戻ってきました。再び、この地区に導かれたことを感謝しています。

二〇一二年二月に澁谷弘祐師と結婚をし、聖望学園と飯能教会を辞し、大分県にある白杵教会に赴任しました。創立百三十年を迎えた教会は、礼拝出席が信徒二名という状況で、とても苦難の時期でした。しかし、受洗者が与えられ、離れていた方が戻ってこられ、四名の信徒と礼拝を献げることができるようになりました。苦しみを喜びに変えてくださった主は「強く、雄々しくあれ」と励ましてくださいました。

私たちの使命は聖霊充滿な教会へと導くことと考え、成長していきたいと願っています。また、地区のみなさまとのお交わりを深めていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いたします。

今あるのは神の恵み

小川教会 末 永廣



礼拝出席が家庭の秩序となるような家庭に生を受け、

当然教会学校を経験することになる。自分なりの考えとして神様とは関係なく生きようと思ひ、日曜学校を辞め、キリスト教から卒業したつもりだったのである。その結果、他者を発見できず、したがって自分を発見するのに長い月日がかかったのである。

歴史学習の中でイエスとは出会っていたと思うが、信仰を告白することはなく、仕事のために群馬に来て神の待ち伏せにあった。伊勢崎教会で信仰を告白してその後東京神学大学を経て、四国教区高知分区分中村栄光教会に赴任。

それまでの四十年近い月日の中で、多くの世界と神の民との出会いを通して得られたものを用いて伝道に励みたい。この四月より小川教会に導かれ、教会員と共に、この地に臆せず福音を宣べ伝えて行こうと祈っています。今あるのは神の恵み。

北本教会会堂建築

北本教会 石川 栄一

二〇一一年四月、プレハブだった教育館兼倉庫から出火し、会堂も一部延焼しました。早速、土橋地区委員長はじめ埼玉地区諸教会から多くの方々から後片付けに駆けつけてくださり、翌日の礼拝もいつも通り守ることが出来ました。感謝でした。



その後、七月の教会総会で、会堂・牧師館の再建を決議。再び地区の諸教会から祈りと献金のお支えをいただき、二〇

一二年七月から新会堂での礼拝を始めることが出来ました。主の恩寵と地区の皆様のお祈りを今改めて、教会員一同深く覚えさせていただいております。今年一月の埼玉地区三区新年合同礼拝も新会堂で竹内紹一郎牧師（深谷西島教会）の説教、そして北本教会の青年の成人祝福式が山野裕子教師（久喜集会所）によって行われるな

ど大きな喜びの時を過ごさせていただきました。

さらに恵みに恵みが増しく

わえられて、昨年の秋のチャペル・コンサートにこられた新来者のうち三名の方が求道者として礼拝・祈禱会に出席されるようになり、そのうち近所にお住いの二名の方が、この度のイースターに洗礼を受けられました。礼拝出席者も徐々に増えてきて、本堂に「新会堂がまず伝道する」という言葉を現実のこととして実感しております。また小さい教会にも関わらず現在、神学生が三名（日本聖書神学校二名、東京神学大学一名）が奉仕して下さり、CS活動も活発になってきました。ただ感謝のみです。

課題もまだ多くありますが、皆様、今後もお祈りの継続を是非宜しくお願い致します。



二〇一三年度婦人部総会

武蔵豊岡教会 中松 聖美

『キリストに結ばれて苦しみを分かち合い、福音の希望に生きる』—コロサイの信徒への手紙を学びつつ—の主題の下、新しい役員が一同に会し、今までの役員さんの労苦と喜びをこの身に受けつつ、新たな出発の時を迎えました。

出席は、三十九教会・伝道所、集会所一で、一〇一名でした。開会礼拝は東京聖書学校吉川教会の深谷美歌子牧師です。コロサイの信徒への手紙三章十八〜二十四節『主に対するように家族に愛を』の御言葉に聴き、夫々が自らを顧みるときを与えられ感謝でした。

一人ひとりが主に繋がる器として主体的に働き、そして各個教会と地区、教区との連帯を通して、福音宣教の一旦を担う婦人部として在りたいと願っています。

兄弟姉妹方の祈りに支えられ、これからの二年間の歩みを進めて参りたいと願っています。全てを主に委ねます。

(婦人部委員長)

李秀雲先生を偲んで

上尾合同教会 秋山 徹



李秀雲先生は六月十三日、聖路加国際病院緩和ケア病棟で、手厚い看護と多くの人の祈りと支えの中で、最後の時を迎えられました。

先生は、五月二十六日(日)の埼玉中国語礼拝伝道所開設十五周年の記念礼拝を目前にして乳がんの転移のため入院。記念礼拝出席もかなわず、台湾から来日して十五年間李先生の伝道を助けられたご両親、養女の欣怡(しんい)さん(小学六年生)を残して、主は先生を御許に召されました。五十六歳の生涯でした。

台湾で生まれ、高雄で大学の教育を受け、日本での八年間の学びを終えて台湾でキリスト教教育の教師として身を立てていくことにしていた李牧師を、主は不思議なみ手をもって日本に送り帰し、この地で日本にいるアジア人のための開拓伝道を始めさせ、主キリストの体の肢である埼玉中国語礼拝伝道所を建てさせられました。この働きは、ほかの誰にもでき

ない、この人に特別に与えられた働きでした。このように一人の人を召しだしてお使いになる主のみ業の不思議を思わずにはいられません。

李先生は、入院される前に、「まだ、わたしは死ねません。わたしの家族も、中国語礼拝も、わたしがいなくなれば大変です」と言っていました。わたしたちもそう思って、癒していただけのように懸命に祈りましたが、それは神様の御心ではありませんでした。神さまは、「それで十分だ。重荷を下ろして休みなさい」と言われました。

李先生の伝道者としての歩みを顧みると、「良い知らせを伝える者の足は、何と美しいことか」というみ言葉を思い起こします。李先生の歩んだ足跡の広さ、多くの人の生活の状況と心の深みに歩みこんだ深さ、それによって伝えられた神の愛、キリストの贖い、聖霊の生きた働きを思うとき、五十六年の生涯は「あまりにも短い」と言えず、重く、充実した歩みであったと思います。わたしたちも、「良い知らせを伝える者の足は、何と美しいことか」と、共に主を讃えたいと思います。

IT祭り報告

西川口教会 金田佐久子

二〇一三年六月十六日(日)埼玉新生教会を会場に、第十二回IT祭りを開催しました。

日本CGNTV契約スタッフの北上菜穂子氏より「メディア伝道の可能性を探る(パート3)——二十四時間三六五日衛



星放送とインターネットテレビ」と題する講演を伺いました。

日本CGNTVは、二〇〇六年に開局され、毎日二十四時間オンエアしているキリスト教放送です。衛星アンテナを設置すれば、無料で全ての番組を見ることが出来ます。またインターネットでも配信されています。この衛星アンテナの取り付け台数は約二五〇〇台で、視

聴者は、インターネットからの視聴者がアンテナ設置者を大きく上回っているそうです。番組はキリスト者が慰め、励まされ、元気を与えられ、燃やされて伝道に向かうことができることを目指しています。

北上氏はアメリカに留学し放送を学ばれました。留学時代に救われて、帰国後は太平洋放送協会で働き、ラジオ番組の制作を担当されました。二〇〇八年より日本CGNTVで働き、



映像番組の制作に携わるようになりました。また、礼拝の中で映像を利用してある事例を紹介してくださいました。病と闘う教会の青年と、その青年を祈り励ます教会の姿が映った映像は、非常に訴えるものがありました。教会の礼拝で本人の証しと映像が、伝道のために用いられたとのことでした。

いろいろなメディアがあり、現代はITも駆使して教会を紹介する時代ですが、これらはいくまでも道具であって、どのような形でも教会に来られた人を迎えて導くのは、教会に生きるわたしたちである、と最後に語られ、深く共感しました。(講演は埼玉地区ホームページで聴くことができます。)

講演の後は、休憩をはさんで埼玉地区内教会のホームページの現状と題して、聖学院教会、浦和別所教会、越生教会、東所沢教会、越谷教会の担当者にお話しをして頂きました。どの教会も、教会の活動を丁寧伝えて、少しでも教会の敷居を低くして、教会を知っていただきたいとの熱意を感じました。

地区伝道委員会の後援も頂き、十二教会・三十一名の参加でした。(ホームページ委員会)

伝道所開設

国際愛伝道所 許昌範

国際愛伝道所が開設出来る恵みを神様と大宮教会・埼玉地区・教区に心から感謝致します。

国際愛伝道所は、四月七日にソウル教会から四人と福島一夫長老合わせて二十一名が喜びを持って心から神様に入堂礼拝をささげました。今は大人十人と子ども七人で礼拝を守っています。

最初は北区益裁町にある大和ビルを借りる予定でしたが契約が出来なくて、必死に神様に祈って、北区本郷町むさしパソビル二階を借りることが出来ました。

家主さんといろいろな話をしながら、神様の御心が分かりました。家主さんは、わたしの長女もクリスチャンです。よと話しながら、韓国語も出来るし韓国人と韓国が好きだそうで



す。また、三階の部屋に韓国の俳優チャン・グンソクの大きな写真が貼ってあります。

また、一階は食べるパン屋さんで、二階は命のパンを宣べ伝える所として、わたしは神様が与えて下さった建物であることを確信しました。

このビルは大砂土小学校の角にあります。とっても分かりやすいし伝道しやすい所です。また、周辺は幼稚園・小学校・中学校や塾、また、ショッピングセンターとマンションがたくさんあります。この地域で国際愛伝道所が立てられたことは、この地域に伝道する使命があると思います。わたしは神様の栄光のために、「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ十四章六節)「もし信じるなら、神の栄光が見られる。」(ヨハネ十一章四十節)に記してあるよ

うに、神の御言葉を力強く宣べ伝えたいです。

教会音楽講習会

埼玉新生教会 吉田みち子

「世界の讃美歌の今」を年間テーマとし、二〇一三年度第一回教会音楽講習会を五月二十五日(土) 大宮教会で開催しました。今回のテーマは「今の讃美歌を知る」。講師はカンパイルド長老教会めぐみ教会牧師の荒瀬牧彦先生です。荒瀬先生は礼拝学が専門ですが讃美歌についての造詣も深く、礼拝や讃美歌に関する著作がある他、「讃美歌21」の編集協力者も務められました。



正田勝子先生の開会祈禱に続き、さっそく講習開始です。前半は礼拝と讃美歌の関係についての講演。まず、奏楽者も司式者であり、説教者や司会者とのチームワークが大切であること。会衆が礼拝で歌うのは、私たちが観客ではなく主体的に参加して礼拝を捧げ、体と心と魂を振わせて福音を伝えるためであること。礼拝の構造の中で、その時々語られたことに対して讃美歌を歌って応答していくものであることなど、ユーモアを交えて語ってくださいました。さらに映像を用いて、ウガンダの野外での礼拝やアメリカのメガチャーチでの賛美ダンスや手話を交えた賛美など、「世界」の様々な礼拝を紹介。「今」現在に生きる私たちは、地域や民族によって異なる多様なキリスト教礼拝について関心を持ち、共有していく必要があると教えてくださいました。

後半は「讃美歌21」「こどもさんびか改訂版」「Thuma Mina世界のさんび」1, 2(すべて教団出版局発行)から、世界各地の新しい讃美歌およそ三十曲を参加者全員で歌いました。それぞれの歌の特徴や背景、どんな場面で用いるかなど



先生の解説を挟みながら、奏楽者の委員たちが、曲調によってオルガン、ピアノ、ギターを使い分けた伴奏をつけての実践です。普段私たちの教会ではあまり歌っていない讃美歌がほとんどでしたが、新鮮な気持ちで声高らかに歌うことができました。各教会で用いるときの参考になることを期待しています。

十二教会から三十九人の参加がありました。次回は十月二十六日(土)で、引き続き荒瀬先生に講演して頂きます。二十一世紀初めの状況を教えて頂きながら、さらに多種多様な新しい讃美歌を歌っていく予定です。

特集

浦和ルーテル学院

小中高等学校教頭

福島 宏政

浦和ルーテル学院は、一九五三年、米国ルーテル教団ミズーリ派の支援により浦和聖望学園小学校として、浦和市駒場の地に設立されました。四名の入学児と校長以下四名の教師によるスタートでした。



当初、飯能にある聖望学園中高等学校と同一の法人でした。その後浦和の地に一九六三年に中学校を、一九七〇年に高等学校を設立しました。一九七四年には飯能の聖望学園と法人を分離し、浦和ルーテル学院となりました。

ここに、画期的な十二年一貫教育が誕生したのです。その



後、T.T(チーム・ティーチング)教育校舎増築、体育館・温水プール竣工、山の上学校(福島県岩瀬郡)の設立、新中高等部棟竣工と歩みを重ね、今年創立六十周年を迎えました。

また米国のコンコーディア大学とアリゾナ州フェニックスのクライスト・ルーサーン・スクールとは同じルーテル系の学校として生徒・教師の交換留学を行うなど、活発な交流を行っています。

浦和ルーテル学院の教育目標は建学の精神「神と人とを愛する人間、神と人とに愛される人間」の言葉に集約されます。

またイースター、ペンテコステ、宗教改革記念、クリスマス

また十二年間という長いチームで、一人ひとりの良いところを最大限伸ばしていくことが出来ます。医学、薬学、工学から法学、語学、そして芸術や体育方面までバリエイション豊かな進路を実現しているのはその成果といえます。

その他にも、山の上学校における宿泊学習、アメリカ人教師による小学一年からの英語教育、週一時間の水泳授業など特色ある教育を行っています。

聖書による宗教改革を行ったルターの精神を土台とする学院として、小学一年から聖書を手にし、司会、祈祷、聖書朗読、奏楽すべてを児童生徒自身が行えるよう指導しています。



問題やキリスト教倫理などを取り入れながら、自分自身の生き方の模索につなげていきます。

礼拝は毎日、朝の会と帰りの会の際に持たれます。まさに礼拝で始まり、礼拝に終わる毎日です。月に一度のアツセンブリアワーでは、小中高校生が一同に会し、理事長・校長の奨励を聞きます。火・木曜日は初等部、水曜日に高等部、金曜日に中等部の各部の礼拝を持ちます。

キリスト教主義に基づき、他者を思いやる人格的成長を促し、知的な成長をも達成する。この目標を実現するため、きめ細かい指導ができる少人数制を採用しています。

また十二年間という長いチームで、一人ひとりの良いところを最大限伸ばしていくことが出来ます。医学、薬学、工学から法学、語学、そして芸術や体育方面までバリエイション豊かな進路を実現しているのはその成果といえます。

礼拝は毎日、朝の会と帰りの会の際に持たれます。まさに礼拝で始まり、礼拝に終わる毎日です。月に一度のアツセンブリアワーでは、小中高校生が一同に会し、理事長・校長の奨励を聞きます。火・木曜日は初等部、水曜日に高等部、金曜日に中等部の各部の礼拝を持ちます。

を招きして礼拝説教を頂いております。

浦和ルーテル学院は来年少中高の児童生徒が所属し、礼拝の恵みにあずかっています。心より感謝申し上げます。特にすぐ傍にある浦和ルーテル教会には毎日曜日、多くの児童生徒が出席し、福音を共有しているのは大きな喜びです。

埼玉地区の多くの教会に小中高の児童生徒が所属し、礼拝の恵みにあずかっています。心より感謝申し上げます。特にすぐ傍にある浦和ルーテル教会には毎日曜日、多くの児童生徒が出席し、福音を共有しているのは大きな喜びです。

児童生徒の活動としては、小学三年生からのハンドベルクワイヤー、中学からの聖歌隊の活動を通し、讚美演奏奉仕に携わる喜びを共有しています。礼拝準備や進行を担う礼拝委員会も五年生から活動しています。



地区委員会報告

●二〇一三年度第一回委員会

日時 三月二〇日(水)
会場 上尾合同教会
出席 十一名 陪席 五名

【主な協議事項】

◇地区総会の件

地区総会補助書記(竹内紹一郎、佐々木佐余子)の陪席のもと、二〇一三年度地区総会諸報告の承認と決定事項の確認を行った。

◇地区委員の役割分担の件

委員長 土橋誠(飯能)
副委員長 山岡創(坂戸いずみ)、書記 都築英夫(秩父)、会計 結城恭子(大宮)、補助書記 豊川昭夫(越谷)、補助会計 後藤龍男(和戸)

【委員会・部会担当】

・伝道 布村伸一(熊谷)、豊川昭夫
・教育 山岡創
・社会 後藤龍男
・教師 野村忠規(東松山)
・地区通信 都築英夫
・ホームページ 金田佐久子(西川口)、豊川昭夫
・修養会 金田佐久子、山田称子(浦和別所)
・災害対応 山岡創、豊川昭夫
・壮年部 小岩晃(上尾合同)
・婦人部 結城恭子

・青年部 山岡創
・障教懇 小岩晃

・教会音楽 山田称子

・埼玉連、同宗連 飯野敏明

【本庄・委嘱】

・川越少年刑務所教誨師

山岡創

・カルト問題

白石多美出「春日部・委嘱」

◇委員会日程と会場の件

第二回 五月十四日(金)

午後五時、会場・大宮教会

開会礼拝担当：都築英夫

第三回目以降の日程と会場

は次回委員会で決定する。

●二〇一三年度第二回委員会

日時 五月十四日(火)
会場 大宮教会
出席 十名

【主な報告】

◇委員長報告

*教会・教師の情報
・辞任

・就任

佐々木佐余子(七里)

佐々木佐余子(白岡)、末永廣

(小川)、澁谷弘祐・澁谷実季

(毛呂)、川染三郎(鴻巣)、木

俣修(本庄旭)

・開設

国際愛伝道所、許昌範教師

・増改築竣工式

東京聖書学校吉川教会

・関東教区常置委員会報告
◇三月、四月の会計報告。
◇各委員会・各部報告
【主な協議事項】

◇地区伝道支援金申請の件
埼玉中国語礼拝伝道所より
記念礼拝の開催にあたって
申請があり承認。

◇地区総会付託議案の件
地区会計監査選任
竹内紹一郎牧師(深谷西島教会)、金刺泰雄兄(上尾合同教会)

◇地区総会議事録承認
次回総会会場、日程
二〇一四年三月二日(金)
会場候補は東京聖書学校吉川教会

◇地区委員会主催集会の件
新年合同礼拝は、二〇一四年
一月十三日(月)、埼玉新生教会、三区合同で行う。

◇地区総合協議会は、二〇一四年
二月七日(金)、大宮教会で行う。

◇伝道所・集会所との懇談会は、二〇一三年十一月十九日(火)、大宮教会で行う。

◇地区委員会日程会場の件
第三く七回までの日程、会場、開会礼拝担当者を決定。

◇地区委嘱状の件
例年通り、地区月報八月号に掲載する「埼玉地区各委員

会・各部名簿」をもって委嘱状に代える。

◇インターファックスの件
各委員会・各部が利用した場合は、年度末に地区委員会が一括して請求し総合協議会の時に地区会計へ支払っていた。

◇関東教区総会に関する件
第六三回関東教区総会選考委員会への推薦者を決定。
・受付、献金奉仕者を決定。
◇被災地訪問ツアーの件
埼玉地区を中心とした「被災地を訪ねる旅」を企画、十月中、二泊三日の予定。

◇京畿中部老会訪問ツアー
埼玉地区より布村牧師と後藤兄を選出する。

◇「地区通信」、「埼玉の夜明け」の執筆者署名の件
社会委員会より「埼玉の夜明け」の「主張」の欄は、今ままで通り無記名で発行したいという報告を受け継続審議。

◇伝道に関する懇談会の件
九月以降に開催を予定。
・発題者を置くか、又パネルディスカッションにするか
等、形式に関しては次回委員会で協議する。継続審議。

クチナシは雨によく似合う。特に八重のクチナシの開花初日の純白には、はっとさせられる。二日目にはアイボリーになり、これも貴婦人の気品があって美しい。香りはしのびやかで人恋しい。

李牧師が逝去された。
二〇一三年度も地区総会で委員長、地区委員の選出を決め、宣教活動計画を承認して新しい歩みを開始した。今年度は特に修養会をはじめとして、地区内の各委員会、教会、伝道所の活動に積極的に参加し、連帯を強めようとの決意を確認した。

国際愛伝道所が開設され、また地区に多くの新任の教師を迎えることが出来た。それぞれに課題を担いながらも、主の言葉を持って宣教の業に励もうと意気盛んである。地域全体で折りを合わせていきたい。

特集では浦和ルーテル学院を紹介頂いた。教団が違うとはいえ、埼玉の諸教会と長年強い絆を築いてきている。次世代への信仰の継承は大切な課題である。

(三井田)

編集後記